

まちかね山 吹奏楽団

第7回定期演奏会

オペラから生まれた ミュージカル

16世紀末にはじまったオペラ（歌劇）は、歌唱芸術では歌手、舞踊芸術ではバレエ・ダンサー、演奏芸術ではオーケストラ、作曲では作曲家といったように、それぞれの分野の一流のプロが総力を結集する舞台芸術です。セリフはなく、オーケストラの演奏で歌を歌いながら物語が進行していきます。そんな中、セリフと踊りがあるオペレッタ（喜歌劇）が19世紀後半に流行しはじめます。

しかしアメリカでは、そんなヨーロッパの高貴な芸術よりも、もっと明るく楽しく庶民的な興行が望まれていたのです。ちよつとお色気も交じえた寸劇や歌、踊り、マジックなどからなるショーが発展していた所に、オペレッタが持ち込まれ、ミュージカルというジャンルがアメリカ

で確立されていきました。

ウエストサイド物語が発表された当時のミュージカルは、ダンサーとシンガーは分業制で、別々のパートを各々が担当するというものでした。

しかしウエストサイド物語では、30人以上の俳優が高度なダンスをこなしつつ、複雑な楽曲を完璧に歌唱する技術が要求されたのです。

それまでは歌唱の添え物でしかなかった「ダンス」の要素が初めて歌と並ぶミュージカル表現の核にまで押し上げられたのです。

そのため、同じ歌を歌う役割の人でもオペラとミュージカルでは発声方法が異なる上に、歌に専念するオペラに対し、セリフも踊りもあるミュージカルでは役割も大きく異なるため「オペラ歌手」、「ミュージカル俳優」と呼び名も変わってくるのです。

特集！

ウエストサイド物語の真相に迫る！

本日の第2部でお送りする「オペラ座の怪人」と「ウエストサイド物語」。この二つに共通するのは大ヒットしたミュージカルであることです。

ここでは、ミュージカルにまつわる豆知識と、ウエストサイド物語について紹介したいと思います。

ウエストサイド物語のあらすじ

主な登場人物を紹介します。

トニー：ウエストサイド地区で活動する少年ギャング団「ジャエット団」の元リーダー。今は真面目に働いている。ここ一ヶ月、「何かが起こりそうなきめき」を感じている。主役。リフ：トニーと共同で設立した少年ギャング団「ジャエット団」の現リーダー。

ベルナルド：プエルトリコからの移民で構成される少年ギャング団「シャーク団」のリーダー。

マリア：ベルナルドの妹。ヒロイン。

ン。

アニタ：ベルナルドの恋人。マリアと仲良し。

チノ：少年ギャング団「シャーク団」の一員で、マリアの婚約者。

.....

このミュージカルのあらすじは、アメリカ・マンハッタンのウエストサイド地区を縄張りとしているヨーロッパ系アメリカ人の「ジャエット団」と、プエルトリコ系移民の「シャーク団」という二つの不良グループ（ギャング団）による対立の物語です。

フィンガースナップを打ち鳴らして街を徘徊する二つのグループは、決闘の話し合いをするため、高校の体育館でのダンス・パーティにグループのメンバーが集います。シャーク団のリーダーの妹マリアはジャエット団のリーダー、リフの親友トニーと出会い恋に落ちます。しかしその後、両派の争いは激しくなり、シャーク団のボスでマリアの兄であるベルナルドがリフを殺し、その結果、トニーがベルナルドを殺します。そして最後はトニーもシャーク団のチノの銃弾に倒れます。



（つづきは4面へ！）

《特集！ゲスト対談》

まちかね山吹奏楽団第7回定期演奏会にて、客演の小野川昭博氏と池田重一氏。お二人は20年来の付き合いとのこと、当団の練習でお二人が久々にお揃いになった日に対談の場を設けました。

団員との初あわせの練習前ながら、当団の団員も数名加わり、とてもリラックスした中での対談となりました。（敬称略）

— さて早速ですが、お二人は20年来のお付き合いとお伺いしましたが、出会いは？

池田：出会いねえ・・・馴れ初めなあ（笑）

小野川：大阪音楽大学だよ。僕が短期大学の2年生の時にシゲが（大学の）学部の1年生で入ってきたんだよ。

確か、僕の学年には短大のほうに2人いてたけど、学部のホルンの人がいてなく、その上は1人。なんせ（上が少なかったから）この学年はホルンが6人あったんだよ。

池田：多かったですね。僕の年は。

小野川：6人もいてるし、みんなバンバン吹く学年やったので、すごい学年だったわけよ。

池田：けっこう生き残ってますよね。市音（大阪市音楽団）の長谷行康くん、彼同期なんですよ。あと、横島勝人くんは今、指揮者やね。

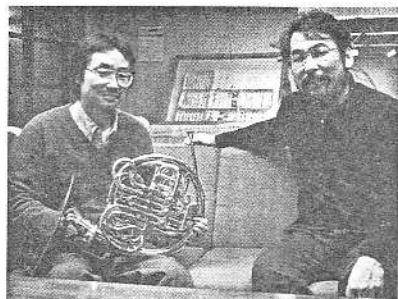
小野川：横島は、ウィーンのほうに勉強しに行って今帰ってきて結構活躍してるよね。最近尚美シンフォニーオーケストラ振ってるよね。バンドジャーナルとかでも見るし。



プロ演奏家の多い池田世代。

— 先ほど、短大と大学での話が出ましたが、合同合奏みたいなものは常にあるんですか？

小野川：今は違うんだけどね、昔はシニア（3・4年生）の吹奏楽、ジュニア（1・2年生）の吹奏楽に



吹奏楽に学年で分かれて、1回2回は短大も学部も一緒にやっていたよね。でも、先

ほど話したようにホルンとかクラリネットなんかは人数少なかったのだから、長谷ちゃんとかシゲちゃんとか結構吹ける人はシニアの連中と一緒に吹いてたりして。

池田：2年のときから、一緒にさせてもらってましたよね。

— 率直にお伺いしますが、当時から呼び名は「シゲちゃん」なんですか？

小野川：シゲちゃんとか、シゲ、とか。そんな感じやね。

池田：そんなもんです。

— ちなみに、逆は・・・

池田：そりやあもう、「小野川

さん」ですよ（笑）先輩は一生先輩ですからね（笑）

— 大学では3年一緒に過ごされた後に卒業されるわけですが。

小野川：僕は大学に残って、シゲは卒業してすぐドイツに留学にいったのよ。

池田：三年ぐらい向こうにいましたね。

小野川：で、帰ってきてすぐ（大阪フィルハーモニー交響楽団）に入ったんやね。シゲはね、メジャーなオケに入ったという意味では、僕らの世代で一番早く出世した人なんよ。

池田：でも、長谷とかも同じタイミングで市音に入ってるんですよ。

小野川：あ、そうやったっけ？

池田：うん、同じ年。25歳の時に入ってますね。

小野川：出世頭やねん。ほんまに。

池田：いやいや、とんでもない。たまたま帰ってきたらあいてたんで（笑）

小野川：それでも、そのポジションをゲットするって言うことはね・・・

— それは、業界としては、かなりの話題だったんですかね？

小野川：そりやそうやわ、やっぱり。

池田：でもあれ不思議でね、あの一週間前に市音のオーディションがあつて、そのときに長谷君が入ったんですよ。山口明君とね。僕はドイツの卒業試験がどうしてもスケジュールがかぶったんで、受けるのをあきらめて大フィル（大阪フィルハーモニー交響楽団）一本に絞ってた。

— では、オーケストラが吹奏楽かというこだわりは、あまりなかったんですか？

池田：その当時はどこかに入ることがやっぱり目的でね。ひよっとしたら、市音にはいっていった可能性もあったわけ。で、（長谷くん）逆になった可能性もあったねえ。

— それから、あしかけ・・・

池田：大フィル入って18年です。

小野川：いやあ、それこそ細い体でめっちゃやう吹く・・・

池田：「池田は二ヶ月で終わるかな」って言われてたのにな（笑）

— 池田先生は、お体は華奢ですが、とっても豊かな音で演奏されますよね。

池田：中学生に人気やねんね。
あんな体でも（こんなに音が）出る
んやって（笑）

――率直に、音大と大フィルで活躍されているお互いをご覧になって、
今どんな印象ですか？

池田：どないもこないもこのま
まやね。昔のままですな。

小野川：昔のままやね。ぜんぜん。
僕らの時代は人数少なかったから
ね。今はすごいたくさん人がいて
んねんね。でも当時は人数少なかっ
たから、いろんな現場で一緒にやっ
たりしてたよ。吹研（大阪音楽大
学の吹奏楽研究会）も手伝ってくれ
たよ。

池田：（僕は吹奏楽研究会の）
メンバーではなかったですよ。

小野川：僕が4回生の時の演奏会
のメインの曲がフェスティバル・ヴ
ァリエーションやってたんだけど、その
ときは乗ってくれてたんだっけ？

池田：乗ってましたよ。「HIT
だけいいから吹いてくれ」って（笑）
ひどい役振られて（笑）

小野川：そのとき、指揮を振って
たのが、市音でカツラパフオーマン
スをやってるトロンボーンの松下健
司やねん（笑）カツラ知ってる？

池田：何やっけ？三つくらい変
えるんでしょ？

小野川：そうそう（笑）会社（※
業界用語で楽団のこと）違うのに、
よく知ってる（笑）

池田：彼も同期なんですよ。
小野川：そう、シゲの学年は結構
プレイヤーやってる人多いのよね。

僕の学年は先生が多い学年。

――せっかくなので、お伺いした
いのですが、先生のご趣味があれば
教えていただけますか？

池田：なんでしようね、やつぱ
りバイクやろなあ。昔から乗ってる
んですけど、趣味になつてしまいま
したよ。最近仕事でしか乗りま
せんけど。ホルンを後ろにくっつ
て。この間、新潟に乗っていったと
き、寒くて死ぬかと思いましたがど
ね。

小野川：今、何に乗ってるの？

池田：今は750ccと250
ccと。前は1000ccやったん
やけど、もうしんどくなつてきて。
足も付かないし（笑）

「一番難しい最高音だけ吹いてくれ」



――1000ccって、馬みたい
に大きいバイクですよ。

池田：からだ小さいんでね、
大学時代にムキになって免許とりに
いって。当時から、後ろにホルン乗
せてね。

――今までで、一番遠くに行った
のは？

池田：北海道。今は、演奏会を
地方で開催するときにバイクで行く
こともあります。ただ、ややこしい
曲がないときに限り、ですよ。大体
ソロありますからね、どの仕事でも
迷惑かからないときにしとかない
とね。

――池田先生は、ホルンを吹かれ
るだけでなくレッスンもされてます
が、最近の中学生・高校生を見てい
て、昔と変わった部分とありますか？

池田：黙ってる子が多いね。表
現しにくいというか、自己主張が少
ない感じがしないでもない。でも場
所にもよりますし、その子にもより
ますけど。

小野川：学校の先生にもよるよね。

でも、確実に子どもの数は少なくな
っているの、現場の先生が子ども
とどういう位置関係にいるかで、子
どもがのびのびやるバンドもあれば
萎縮してしまっているバンドもある
し。やつぱり、子どもは大人をよく見
てるよね。子どもをみると、その先生
がどう指導しているのかわかるとい
うか。

――もし、ホルン吹きに送る、こ
の曲はやってほしいぞ、と言う曲が
あれば教えていただけますか？

池田：それこそ、今回のボエム
にしてもそうですが、聞きやすい
ですし、そんなに音域もきつくない
ですし、あのような曲をされれば勉

強になりますね。

わりと昔から小品をよくやってた
んですけど、結構勉強になりました
ね。それが溜まったんで、CDで出
したんですけどね。

今回の2枚目はちゃんとやりまし
たけど、1枚目はホンマ冗談で出して
（笑）。編集してないですから、（音が）
はずれたからイチからやり直し。テイ
ク16の曲もありましたからね（笑）

――一同：（笑）

池田：もうそうなつてくると、
イントロ聞いただけで、もうええわ
くって（笑）、それはもう大変でして。
最後の二小節前でピアノがコーン
つて。えーって（笑）

小野川：ああそうか、自分だけじ
やなくて伴奏でもか。

池田：最後の四つ前で俺がブリ
つとかね。

はああ……って。

だんだん険悪なムードになりなが
らね（苦笑）

――本日、今から行う練習ですが。

池田：せっかくやし、フェステ
イバル・ヴァリエーション聞きたい
なあ。

――では、「せっかく」ですので、
先生にホルンのソコを吹いていただ
いてもよろしいでしょうか？（笑）

池田：何の話ですか（笑）
小野川：（笑）

――今日は、ありがとうございますま
した。

♣ ウェストサイド裏物語 ストーリー ♣

(1面よりつづき)

【第一話】

アカデミー賞圧勝も
作曲家賞受賞せず――

ミュージカルのウェストサイド物語は映画化され、アカデミー賞に11部門ノミネートされ、10部門で受賞しましたが、作曲家賞は受賞できませんでした。その理由は、もともとミュージカルのために作曲したものであり、映画のために書き下ろしをしたわけではないため対象外となつたそうです。ちなみにアカデミー賞を受賞した理由は様々ですが、人種差別という当時のアメリカではタブーとされていた問題に真正面に取り組み、登場人物たちが愛と平和、争いのない理想の世界を希求する様を描くものの、悲劇で終わる点が非常に画期的なミュージカル映画だったのです。ハッピーエンドのラブコメディが主流であった中、「ミュージカル」という表現方法の概念を覆す革命的な試みは、後世に大きな影響を与えたのです。

【第二話】

ウェストサイドストーリーのルーツはロミオとジュリエット？――

ウェストサイド物語は現代版ロミオとジュリエットと言われています。

その理由は、このミュージカルの制作アイデアが持ち上がった段階で、シェークスピア戯曲「ロミオとジュリエット」を元に、現代版のミュージカルを創りたいと考えたからです。

シェークスピアの「ロミオとジュリエット」では反目しあう二つの家族、モンタギュー家とキャピュレット家の対立が中心ですが、ウェストサイド物語では10代のギャング、ジェット団とシャーク団の対立が中心となっています。ジュリエットが「ロミオ、あなたはどのようにしてロミオなの？」と言うバルコニーのシーンは非常階段に、恋人たちが出会う舞踏会は、高校の体育館のダンス・パーティーに置き換えています。

ロミオとジュリエットでは、暴力事件の真只中におかれた二人の薄幸な恋人を中心に展開し、一連の事件が緊張を高めていきますが、ウェストサイド物語でも同様です。ティボルトがロミオの友人のマキューシオを殺し、その結果ロミオがティボルトを殺しますが、ウェストサイド物語では、ベルナルドがトニーの友人のリフを殺し、その結果トニーがベルナルドを殺します。

このようにウェストサイド物語はロミオとジュリエットに非常に似通ったストーリー展開をしています。一つだけ大きな違いがあります。ジュリエットは死にますが、マリアは死なないのです。これは、ベル

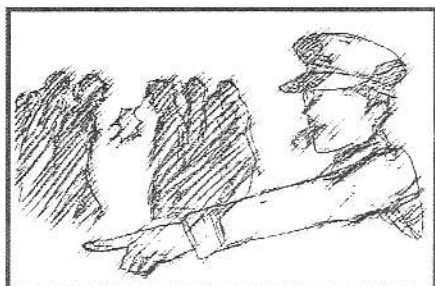
ナルドとリフが死んだ後、ヒーローとヒロインも死んでしまったら、昔からのブロードウェイ・ファンには受けられないだろうと考えたからでした。

【第三話】

イーストサイド・ストーリー？――

ウェストサイド物語は最初、イーストサイド物語でした。一見ウソのような話ですが、当初はロワイヤー・ストリートのギャング抗争を背景に、舞台はスラム街、ユダヤ人の若者とイタリア人女性とのロマンスを描く構想だったためです。しかし、制作の中心人物たちが多忙のため制作は延期。その間にイーストサイドのスラム街は取り壊され、ギャングたちも移動してしまうなど初期プロットは徐々に古くなってきました。

その一方、10代のギャングが現れ始め、青少年の非行問題がたびたび



ニュースになつてきたこともあり「ニューヨークの黒人と、プエルトリコ人の若者の対立するグループ」を元に、舞台を「ヘルズ・キッチン（地獄の台

所）」と呼ばれていたウェストサイドに変更し、登場人物も再度設定。最終的には、ヨーロッパ系白人とプエルトリコ人との若者ギャング団の対立と、それを取り締まる警官。その抗争の中で生まれる密かな恋。



しかし、事態は悲劇に向かい、最終的に現代アメリカを象徴する「銃」によって、悲劇の幕を閉じるストーリーが出来上がったのです。

☆指揮者として名を 残したバーンスタイン

バーンスタインは指揮者として、20世紀の巨匠と呼ばれるオーストリアのヘルベルト・フォン・カラヤンのライバルと称されるほどの人気を博しました。しかし、かねてから39歳の時に作曲した「ウェスト・サイド物語」を上回る作品を生み出したいと思っていたバーンスタインは、作曲活動の時間を確保するため、50歳の時にニューヨーク・フィルハーモニックの常任指揮者を辞任します。しかしこれが逆に「世界一の客演指揮者」として人気に拍車をかけることになったのです。